

しめのひとこと

志免町のいろんなひと、いろんなことをお伝えします！

24

生活環境被害を
なくすには

志免町の取り組み

地域猫活動

志免町生活安全課

生活環境係

箕原 佳鈴 (みのらは かりん) 長通 隆次 (ながみち りゅうじ)

生活安全課生活環境係は、ごみ・し尿・動物愛護・騒音振動など、住民の暮らしに密接したことを担当する係です。また、最近では地球温暖化対策、温室効果ガスの排出削減の推進も担当しています。



活動は20年以上前から続く 町の支援と猫の手術頭数の推移

志免町内での地域猫活動は、20年以上前から始まっていたようです。地域の方々が個人や数人のグループで捨て猫の世話を始め、今のように町からの支援もなく、全額自費で猫のお世話のための費用や手術費等を負担されていたと聞いています。

平成26年度から福岡県による地域猫活動支援事業がスタートし、志免町が無料の不妊去勢手術券交付を実施していました。当初は2団体への交付でした。平成31年度に県から町へ実施主体が移行し、町で「地域猫活動支援事業実施要綱」を策定し、手術券の交付等の支援を続けてきました。

町では平成31年度～令和4年度までにメス79頭、オス59頭、合計138頭の猫の手術を支援しました。その結果ある地域では、活動開始より7年をかけ、ようやく未手術の猫がいなくなりました。

現在は新たな猫を見かけるようですが、地域猫活動とは、このように時間をかけて行う活動であると多くの町民の方に知って欲しいです。



目的は生活環境被害の軽減 地域猫活動とは

近年増加している苦情や相談が、猫による糞尿や発情期の鳴き声などの生活環境被害です。地域猫活動はこれらの被害を軽減することを主な目的とする活動で、生活安全課が担当しています。

猫は法律で愛護動物に指定されており、動物愛護の観点から行政による捕獲・保護は行っていません。猫は栄養状態が良いと年に数回出産し、1回に5頭ほど産まれるため、繁殖制限をしないと1年で猫が20頭以上に増えてしまう地域もあります。一方で、町内で死んだ猫は回収しているだけで年間200頭以上になり、実数は数え切れません。このような不幸な猫を減らしたいという動物愛護の観点で、不妊去勢手術費を町が支援することで、無秩序な頭数増加を制限できます。そして、手術後の飼い主のいない猫を、一定のルールに基づいて適切に飼育管理し、一代限りの生を全うした結果、数年かけて地域の猫の頭数を減らし、猫の引き起こす生活環境被害を減らしていく活動が地域猫活動なのです。



▲ 手術を終えた猫は、片耳をカットしています



町内の地域猫活動の現状とは

町で認定している地域猫活動団体は5団体あります。現場で猫のお世話をされる方の中には、手術のための猫の捕獲や動物病院への運搬、町との書類のやり取りが難しい方もいました。そこで県の地域猫サポーターの方(現在は2名)に、団体のサポートをする形で手術のための捕獲や動物病院への運搬、町との書類のやり取りをお手伝いいただいています。そのおかげで、地域猫活動もスムーズに行うことができてきました。一例ですが、ある地域の地域猫活動団体は、無責任なエサやりをしている住民の情報を聞くと、直接そのお宅を訪ねて手術の必要性を訴えたり、地元町内会へ理解を求めるためチラシの配布や説明会の開催などの地道な活動を行っています。また、町内会と連携し、地域全体で地域猫活動に取り組むところも出てきています。活動への理解が進んできた地域がある一方で、町内全域で見ると、理解や周知に課題があるのも現状です。



新たな資金獲得と広報活動に挑戦

地域猫活動を続けるにあたり、猫の手術のための費用負担が喫緊の課題でした。平成26年開始当初は県からの補助で全額賄えましたが、補助額は年々減少し町の負担が増加しています。そこでGCF(ガバメントクラウドファンディング)に挑戦することが、資金獲得と活動の認知度向上のためにも有効ではないかと考えました。昨年度、300万円を目標に実施したところ、2,683,000円(達成率89.4%)の寄付が集まりました。志免町では、ふるさと納税でも地域猫活動支援プロジェクトを選べます。それら

を合わせて活動費を確保し、今年度から無料のワクチン接種券とウイルス検査券の交付を支援として拡充できました。地域猫の中には子猫や人馴れしている猫がいます。そのような猫を子猫のうちにスムーズな譲渡につなげることは、現場にいる頭数を減らせる有効な手段だと考えます。また、今年度より個人でも交付申請できるように仕組みを変更しました。これにより、少しでも多くの猫に早く手術が実施できればと思います。



究極は飼い主のいない猫をゼロに人の生活環境を守るために

「近所の人々が猫にエサをあげているから注意してほしい」という相談は多いです。仮にエサやりをやめても、猫は地域に棲みつくとため、エサを求めゴミを漁るなど、さらなる生活環境被害を生みます。

また、地域猫活動には「猫そのものがいなくなるから、糞尿被害は無くなる」というご意見もあります。猫が生き物である以上すべての行動を制限することはできません。志免町では、糞尿被害等にお困りの方に猫除けセンサーを最長20日間貸し出しています。捕獲・排除ではなく寄せ付けないという形での対策をお願いしています。地域には、猫が好きな人・嫌いな人・苦手な人・無関心な人など、様々な立場の方がいます。日々現場で地道な地域猫活動をされている方々と、町や町民が同じ目的意識を持って、一体となって地域猫活動に取り組む体制が構築できたらと思います。そのために、町は経済的な支援や地域猫活動の周知・啓発を続け、活動しやすい環境づくりに一緒に取り組みます。活動者の方々は近隣への声かけ、活動目的や方法の説明を実施しています。町民の皆さんに、生活環境被害などの問題を解決する取り組みであると正しく伝わるよう、町も一緒に働きかけを続けていきます。



取材を終えて

地域猫活動について、町民の皆さんに、活動の目的や趣旨を正しく伝える難しさを感じました。町と活動団体と町民の共通理解が必要です。

